

台車 30年ぶり修復完了

おかえり筋の美川南町

動く文化財 職人ら組み立て

5月15、16日に白山市美川地区で行われるおかえり祭りで街中を練り歩く美川南町の台車の修繕が終わり、23日、美川浜町の収納庫前で職人や住民ら約20人が1200の部材からなる台車を組み立て、螺鈿がぜいたくに施された重厚華麗な晴れ姿に見入った。

午前は、昨夏から修繕に携わってきた美川新町の北島仏壇製作所4代目

北島昭浩さん(45)が中心となり、屋根をクレーンで持ち上げて本体に結合する作業が行われた。雨がぱらつく中で屋根が無事設置されると職人らから安堵の声が漏れた。

午後からは収納庫内で欄干や舞台を取り付ける作業が進められた。職人らは張り直された金箔の美しさに目を細めながら細心の注意を払って「動く文化財」とも言われる

台車に屋根を乗せる
北島仏壇店の社員
「白山市美川浜町



台車を組み立てた。

30年ぶりに修理された台車は、車輪などが従来の朱塗りから深みのある赤茶色に代わり、3種類の貝を使った螺鈿細工とともに落ち着いた中に華やかな雰囲気をもたらしている。同町祭礼委員長の

美川南町の台車は大正年間(1830〜43)に造られたとされている。傷みが激しかったことと、今年同町が10年に一度の「おかえり筋」を務めることから、昨夏解体し、北島仏壇製作所が修理を進めてきた。



制70周年の節目を祝う品が店頭を飾っている。

「カブッキー」グッズ続々

小松市制70周年祝う

小松市のキャッチコピー「いよっ小松」やイメージキャラクター「カブッキー」の関連商品が写真が続々と登場し、市

今後カブッキーをあしらったせんべいなどが開発される。市観光協会や市物産振興協会では「市を挙げて70周年を盛り上げていきたい」としている。

の特産品販売所「ぶっさんや」には、カブッキーの置物や、九谷焼の湯飲み茶わん、マグカップ、皿のほか、カブッキーのシールを記したワッフル、どら焼き、サプリメントうどん、カステラなど10種類以上の商品が並んでいる。

こまつ芸術劇場うらら内